

厳しい経営状況の中で、企業誘致の促進によるバス路線の拡大、路線乗り合いバス利用者の拡大は、増収対策につながる重要なものです。そのため、企業等の進出が続きます。響灘地区などをターゲットにバス路線の整備拡大が可能を検討しています。

響灘地区について、朝夕に渋滞が発生していることは認識しています。バス路線の整備拡大により、マイカーを御利用している通勤の皆様が、バス通勤に転換してもらえば、渋滞緩和に一定の効果があると考えております。

また、バスはマイカーと比較して、CO2排出量が約4割と、カーボンニュートラルにも貢献できると考えております。

これらのことを踏まえまして、まずは、この地区の企業の皆さんに対する意見交換を開始しております。また、100名を超える地元経営者などで構成されます若松あつまる会にも参加し、話を伺いました。

これら企業や会の皆様から、路線の拡大、増便、利用促進に関する様々な意見をいただいております。

また具体的な検討に当たりましては、令和3年度、北九州市営バスでパッケージ型路線バスダイヤ改正支援システム開発実証実験を行いました。スタートアップ企業である、スマートモビリティジャパンが持つ技術等を活用し、最適な運行ルートなどの検討も行ってみたいと考えています。

引き続き、企業や地域の声を聞くとともに、採算が取れるのか、乗務員の確保をどうするかなどの課題を整理しながら、民間企業の技

術も活用し、具体的にどのような路線が整備拡大できるかなど、今後、現検討を深めてまいります。

北九州市と台湾との姉妹都市締結について

政府は、観光立国推進基本計画の復活に向け、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の三つの戦略に取り組むこととしています。

また、親日層の拡大や、訪日客誘致につながる取組を積極的に進めています。

そこで、新日といえは、やはり台湾です。アジア圏の旅行者の中で、常駐上位を占めることに加え、アウトバウンドにおいても、日本人は台湾を親しみやすく、食文化が豊かで美しい地域と認識しています。台湾は観光地としても人気で、多くの日本人が訪れ、航空便も先月スターフライヤーが北九州台北線のチャーター便を令和6年2月に実施すると発表がありました。

そして、今回の質問に至った経緯を2点説明いたします。

1点目は、北九州青年会議所のメンバーと北九州市の未来まちづくり等の議論を交わす中、「観光」特にインバウンドの重要性が上がりました。また、北九州青年会議所は、1970年に大量滞留台北交流委員会を設置し、現在も半世紀以上にわたり、行き来を重ね、有効な交流を継続しています。

2点目は、御縁のある台北駐福岡経済文化弁事所長、台湾新聞の代表取締役であり、九州台湾商会名誉会長との交流の中で、1点目とあわせ、2度にわたり、北九州市との交流

を深めたいとの要望を受けました。そこで、2点お尋ねいたします。

①本市は現在、アメリカのタコマ市及びノーフォーク市、中国の大連市、韓国の仁川港区域市、ベトナムのハイフォン市、カンボジアのプノンペン都と姉妹友好都市として、様々な交流を行っているかと思えます。

そこで、新たに姉妹友好都市の協定締結を行うとした場合、どのような条件が必要になるか、お伺いします。

②市長は目指す都市像として、つながりと情熱と技術で二歩先の価値観を実現するグローバル挑戦都市北九州市を掲げています。

現在国内においても、台湾の企業が進出するなど、交流が進むものと思えます。

そこで、本市と台湾と台湾の都市との姉妹友好都市の締結について、市長の見解をお伺いいたします。

グローバル挑戦とし、今回の新たなビジョンの素案では目指す都市像として、つながりと情熱と技術で二歩先の価値観を実現するグローバル挑戦都市北九州市というものを、掲げております。台湾は、世界的に見ても高いシェア率を誇る半導体産業、スタートアップ推進への積極的な取組、高い訪日意欲などを有している。

また、北九州市におきましても、半導体関連産業の立地が続いていることから、台湾は今後、稼げるまちや彩りあるまちの実現に向けても、戦略的に連携を進めていくべき重要な相手であるというふうに考えています。

こうした中で現在、北九州市は、台湾との間でインバウンド促進に向けた観光プロモーション、北九州産業学術推進機構、フェースと進駐サイエンスパークなどの学術交流、台湾歴史博物館と北九州市漫画ミュージアムとの特別展の合同開催など、経済や文化を中心に様々な分野で交流が行われているところでです。

私も台北駐福岡経済文化弁事所長とお会いさせていただく機会がありました。非常に情熱的に、日本そして福岡県北九州市との交流の強化連携の強化ということを語っていただいていた非常に私も感銘を受けました。今後さらに、積極的な相互交流を進めていくということを確認したところです。

姉妹友好都市を締結していくことに当たっては、幅広い分野における事業や交流を積み重ねていく必要があると考えております。

